R2年度　放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和　3年　3月　26日　　事業所名　　放課後等デイサービス　にじの森

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6			
	2	職員の配置数は適切である	6			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	3	・危険な場所にはマットで対応する ・怪我等の危険がないよう必要に応じて、クッションなどの設置をしている。	・バリアフリー改修までは、現段階では借りている場所ということもあり難しい状態である。しかし、可能な限り簡易のスロープを設置する等対応できるようにしている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6		・施設内の修理等、職員間で話し合いを行い、より良い方法を考える事が出来ている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6			
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6			
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6		・今後どうしていきたいか等、話しを面談時に伺い、計画書に活かしている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		・毎月、色々な活動を組み合わせている。立案者が苦手なジャンルの活動も入れるようにしている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6		・コロナで行く場所が制限されたが、近場の公園等を利用する。	・できる限りの配慮をしている。密にならない場所を探すことが難しかった。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	6		・集団活動は、設定活動として行い、個別の活動に関しては、学習（主に宿題）の習慣化に力をいれている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6			
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6		・当日は難しい場合には、翌日の朝に前日の反省会を行う事ができる。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		・個別記録には、計画書が見られるようにして、日々照らし合わせながら記録が取れるようにしている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	6			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		・担当制をとっている為、参加する事ができている。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	6			
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	1	・薬を準備し、何かあった時にはすぐに連絡を入れるようにしている	・今年度も、医ケア児の受け入れをしていない為わからない部分が多い。保護者の連携を交えながら医療機関との連絡体制も整えたいと考える。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6		・面談時の資料を提示してもらえるように作成している。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	6		・コロナの影響で、外部との接触を極力控えている為、機会はない状態であった。今後も状況を見ながら、検討していきたいと思う。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	6			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6			
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っている	5	1		・面談時にそれぞれの家庭状況の話を聞くと、課題が見えてくる為、まずは電話等で対応していく。それでも改善ならない場合には、来所して頂く等して直接お話しする機会を設けていく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	2	・コロナで集まりはできなかったが、少人数での集まりで午前、午後に分かれる等工夫を行った	・父母の会に代わる活動を、コロナの状況を見て、今後も行っていく必要があると思う。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		・通信を毎月発行している。内容も偏らないよう、子ども達の意見も取り入れた内容を提示している。	
	35	個人情報に十分注意している	6			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	6	・コロナ禍の中で招待は難しかった	・やはり、極力外部との接触を控えていたため、状況が良くなったときには検討していきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	1	・マニュアルを確認していなかった	・マニュアルの徹底を行う。定期的に目を通せるよう確認を行っていく必要があると考える。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6			
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6		・保護者に提示する前に、職員全体で確認を行っている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6			